

2026年度通常総代会報告書



- 第1号議案 2025年度事業報告書および決算関係書類等承認の件
- 第2号議案 2026年度事業計画及び予算決定の件
- 第3号議案 組合員整理による法定脱退の件
- 第4号議案 監事監査規則一部改正承認の件
- 第5号議案 役員報酬限度額決定の件
- 第6号議案 議案決議効力発生の件
- 役員選挙

すべての議案が賛成多数で可決されました。
また役員候補者は全員当選となりました。

「年次更新型再生計画 2026」に沿って累積赤字の解消をめざします。

北海道大学生生活協同組合

議案の採決結果と出席者数

議案の採決結果

議案の採決結果 出席総代数 203 名（うち実出席数 87 名）*2025 年出席総代 189 名（うち実出席者 84 名）

総代選出状況

選挙区	定数	選出数	選出率	本人出席	代理出席	書面出席	出席合計	参加率
学部1年生	210	104	76.7%	51	0	50	101	97.1%
学部上級生		57		19	0	19	38	66.7%
大学院生	40	28	70.0%	7	0	16	23	82.1%
教職員	60	38	63.3%	5	0	26	31	81.6%
生協その他	10	10	100.0%	5	0	5	10	100.0%
	320	237	74.1%	87	0	116	203	85.7%

- 学部1年生の総代選出は1クラス2名選出を継続、学部上級生は昨年から11名増加しました。院生総代は研究室向けフライヤーおよび教職員総代からの呼びかけもあり12名増加しました。

選挙区（人）		2026定数	2026選出数	2025	2024	2023	2022	2021	2020
学部生	1年生	210	104	104/104	148/150	149/150	52/52	52/52	0/52
	2年生以上		57	46/90			64/98	40/48	60/90
大学院生		40	28	16/30	16/40	26/40	23/40	23/50	37/50
教職員		60	38	39/60	46/60	48/60	48/60	52/60	54/75
生協職員その他		10	10	10/10	9/10	10/10	10/10	5/10	7/7
合計		320	237	215/294	219/260	233/260	172/260	172/220	158/274

- 全議案、賛成多数で可決承認されました。

【議案表決結果】

議案	保留	反対	賛成
第1号議案 2025年度事業報告書および決算関係書類等承認の件	3	0	199
第2号議案 2026年度事業計画及び予算決定の件	7	2	193
第3号議案 組合員整理による法定脱退の件	1	0	201
第4号議案 監事監査規則一部改正承認の件	1	0	201
第5号議案 役員報酬限度額決定の件	8	0	194
第6号議案 議案決議効力発生の件	2	0	200

※ 議長は採決者数に加わりません

2026 年度総代会の議事の概要

【2026 年度 通常総代会】

開催日時：2026 年 5 月 20 日（水）18:30～19:50

開催場所：北海道大学 クラーク会館講堂

出席総代：内訳：本人出席 87 人・代理人出席 0 人・書面出席 116 人 合計 203 人

出席役員：坂爪浩史 理事長、齋藤真廣 専務理事、金川眞行 常務理事、田代直也 常務理事、渡邊稀羅 常務理事、櫛井太智 常務理事、田所和廉 常務理事、佐藤哲生 理事、林忠一 理事、川上あき 理事、中野翔太郎 理事、山下匡隆 理事、岡田唯花 理事、福田梨瑛 理事、福嶋柳之丞 理事、芳賀永 監事会議長、戸松陸 監事

議長：井野田楓（学部 2 年総代）

書記：岡田唯花（学部 3 年）、齋藤愛斗（学部 2 年）、松岡佑太（学部 2 年）

議事運営委員：福嶋柳之丞（理事）、寺澤一彦（生協職員）

学生、院生、教職員をはじめ、オブザーバーも含め多くの実出席で開催することができました。会場はクラーク会館講堂をお借りして開催いたしました。実出席総代 87 名、代理人出席 0 名、書面出席 116 名の他、オブザーバーも 30 名ほど参加いただきました。採決の結果、すべての議案が賛成多数にて決定承認されました。

当日総代からの発言もあり、また事前に多くの意見（「ご意見用紙」後掲 P8）もいただき、活発な議論が行われた総代会となりました。



【議事について】

【第1号議案 2025年度事業報告および決算関係書類等承認の件】

- 2025年3月から2026年2月までの北大生協の事業と経営結果の妥当性について承認されました。
- 当期末処理損失金1億5,048万円を2026年度に繰り越すことが承認されました。

田所和廉 常務理事、齋藤真廣 専務理事より2025年度の組合員活動報告及び事業活動報告、決算関係の報告があり、また芳賀永 監事会議長より監査報告があり、過半数の賛成により原案どおり可決承認されました。(賛成199、保留3、反対0)

【第2号議案 2026年度事業計画及び予算決定の件】

- 2026年度の事業方針とその計画、供給予算、損益計画を決定しました。

田所和廉 常務理事、齋藤真廣 専務理事より2026年度事業計画及び予算決定の件について提案され、過半数の賛成により原案どおり可決承認されました。(賛成193、保留7、反対2)

【第3号議案 組合員整理による法定脱退の件】

- 生協法と定款に基づき、適切な組合員管理を行うため、北大に在籍していないと考えられる連絡のつかない組合員の法定脱退を行うことが承認されました。

齋藤真廣 専務理事より、組合員整理による法定脱退の件について提案され、3分の2以上の賛成により原案どおり可決承認されました。(賛成201、保留1、反対0)

【第4号議案 監事監査規則一部改正承認の件】

- 生協法改正に伴い北大生協監事監査規則も変更が必要になったため改正を行うことが承認されました。

齋藤真廣 専務理事より、監事監査規則一部改正承認の件について提案され過半数の賛成により原案どおり可決承認されました。(賛成201、保留1、反対0)

【第5号議案 役員報酬限度額決定の件】

- 役員(理事・監事)の役員報酬の限度額を決定し、その運用については理事会・監事会に委ねることが承認されました。

齋藤真廣 専務理事より、役員報酬限度額決定の件について提案され、過半数の賛成により原案どおり可決承認されました。(賛成194、保留8、反対0)

【第6号議案 議案決議効力発生の件】

- 議案の本旨に反しない範囲の字句の修正を理事会に一任することが承認されました。

齋藤真廣 専務理事より、議案決議効力発生の件について提案され過半数の賛成により原案どおり可決承認されました。(賛成 200、保留 2、反対 0)

【役員選挙】

理事及び監事全員が本総代会の終了をもって任期満了退任となるため、2026 年度役員選挙をおこないました。

役員選挙管理委員会 清水池委員長より、『役員選挙規約に従い公告期間に受け付けた候補者は理事会推薦のみであり、定数内（理事 25 名、監事 5 名）のため、投票は省略し候補者は全員当選とする』旨の説明があり、拍手で確認されました。



【総代のつどい～総代会編～について】

総代会終了後の20時より、クラーク食堂にて総代のつどいを開催しました。「総代のつどい」とは、総代同士や生協職員、総代以外の組合員らを交えた意見交流会のことです。

<総代のつどい～総代会編～ 概要>

今年度は、60名を超える総代及び組合員の方にご参加いただきました。

食堂では、参加した総代、オブザーバーと生協職員のみなさまに、各テーブルにて、学生組織委員会にて用意したトークテーマをもとに、自由な意見交流を楽しんでもらいました。

(各トークテーマと交流された意見の一部は下記参照)。お食事として、今後生協食堂にて提供予定の「79周年フェアメニュー」の試食とオードブルのメニューを提供いたしました。

本つどいでは、総代をはじめとする組合員の皆さんの現状についての声や、生協に関する意見等をたくさんいただきました。こうした現状や意見を、理事・組織委員会・生協職員らによって、今後のよりよい生協運営に活かしてまいります。



<交流会でのトークテーマについて>

今回の総代のつどいよりおよそ1週間前に開催いたしました、「総代のつどい～学習会編～」での交流会にて、総代の皆様からいただいたご意見を元に、学生委員会にてトークテーマを用意いたしました。以下はその詳細です。

※一部抜粋

①お昼の食堂や購買の混雑はどうすればいいと思いますか？動線など、どのような改善案があると思いますか？

- ・ところどころに空席が散らばっているから、もっと詰めて座る。
- ・ピークを避けて12時半に行く。
- ・待ち列と通行用の動線を明確に分け、待機スペースを整理してほしい。
- ・自分でおかずを取るコーナーをレジ横へ移動する。
- ・購買でお弁当の予約受け取りを実施して、そっちに行ってもらおうよう促す。
- ・購買のミール対応商品を充実させれば、食堂へのお客集中が軽減できるのでは？
- ・モバイルオーダーの導入。お昼は受け取るだけ。



②生協店舗の料理で、どのようなメニューがあるとうれしいですか？また、味を重視しますか、それとも量を重視しますか？

- ・洋風のご飯が欲しい。
- ・脂っこい脂質多めなメニューが多いから、タンパク質多いヘルシーなメニュー。
- ・弁当を持参しているが、デザートが欲しい。
- ・メインディッシュにキャベツ以外の野菜もほしい。
- ・魚系のメニューもっと欲しい
- ・味は現状に満足しているけど、量が足りない。

③食堂のマナーはどうあるべきだと思いますか？また、どうすれば快適に食堂を使えるでしょうか？

- ・みんなが通路に荷物置くから通りにくい。
- ・椅子に荷物を載せないで欲しい。
- ・4人席で2人が斜めに座っていると困る。端に寄って欲しい。
- ・グループの人たちの近くで、1人で食べるのは憚れる。仕切りがあっても座りにくい。
- ・車椅子ユーザーの友達が、毎回車椅子を座席に置いてから、頑張って歩いて注文しに行っているのだから、配慮をして欲しい。

④新入生や在校生としてどのような札幌や北大のマップがあると嬉しいですか？また、特に一人暮らしの方はどんな情報が欲しいですか？

- ・一人暮らしの学生向けに、周辺のスーパーやコンビニの位置がわかるマップが欲しい。
- ・自転車修理できる場所。
- ・病院、薬局の位置を知りたい。
- ・空きコマや休日に学生が手軽に遊べる周辺施設のマップがあると嬉しい。
- ・「距離感・縮尺がわかるマップ」キャンパスが広大であるため、初めて来た際に徒歩での所要時間がわからず苦労した。正確な距離感が掴めるマップが欲しい。

⑤生協は新入生に向けて大々的にサービスの宣伝を行っていますが、在校生に向けてできていると思いますか？また、どのように宣伝すればより多くの組合員に伝えることができると思いますか？

- ・「食堂のトレイ」並んでいる時も食べている時もある。企業広告より生協の宣伝の方が興味ある。
- ・食堂のテレビでBGMと一緒にトラベルの広告流す。自然と耳に入ってくる。
- ・そもそも組合員がどこにいて、何を見ているのかを把握することが重要では？



当日の発言と回答

下記の通り当日、発言を希望する方からご意見用紙の提出がありました。

総代会当日に出された質問や意見に対し、当日会場での齋藤専務からの回答をもとに加筆修正しています。

＜発言内容＞ 質問「累積赤字解消に向けた事業ポートフォリオの明確化、大学との交渉戦略、および経営陣の現場主義の具体的な実行計画について」 院生総代より

理事の皆様、昨年度の黒字化達成へのご尽力に深く敬意を表します。累積赤字 1.5 億円を真に解消し、持続可能な生協をつくるため3点質問いたします。

1. 「稼ぐ戦略」と生協の強みのマネタイズについて

昨年「生協は複合事業体である」との総括を踏まえ、「稼ぐ事業」で「福利厚生」を支える交差補填の戦略が不可欠です。生協の強みである「独占的な立地」「学生のリーチ力」「保護者の安心感」を、外部から利益を稼ぐ「戦略的リソース」としてどう活用するか伺います。

①【安心感とリーチ力】木村工務店等、競合がひしめく「住まい事業」において、自社開発（大家）でリスクを取るのか、「管理・仲介」に特化するのか。戦い方の方向性と、今年度の具体的な投資規模をお示ください。

②【独占的立地】「北大ブランド」で外貨を稼ぐインバウンド戦略について、今年度中の商品リリース予定や売上目標はありますか。

③【強みの掛け合わせ】立地とリーチ力を活かした「企業向け広告事業」や「保護者向け高付加価値サービス」など、新たなマネタイズ構想はありますか。

2. 大学の縦割りを突破する「交渉のカード」について

福利厚生会館の老朽化協議において、現場レベルのお願いでは大学特有の「縦割りの壁」に阻まれます。大学の執行部に対し、生協の存在が大学のコスト削減に直結するという「パッケージ提案」が必要です。

①現在の協議において、経営陣が直面している大学側の「生の声」や「具体的なハードル」をご教示ください。

②それを踏まえ、全学的な合意を取り付けるための「具体的な交渉カード」と、譲歩を引き出すまでの明確なタイムラインをお示ください。

3. 経営トップによる「現場主義」の仕組み化について

入構証や住居手続が未だオンライン化されずクラーク会館まで足を運ばせるなど、ユーザーのリアルな不便さへの想像力が欠けていると感じます。

①意思決定を担う理事の皆様は、最近1ヶ月でどの程度店舗を利用し、どんな具体的な「経営課題」を発見されましたか。

②経営陣自ら現場を歩く「ストアウォーク」や「覆面調査」を、理事会の公式活動として取り入れるお考えはありますか。もしないならば、机上の空論を防ぎ、現場の課題を客観的に吸い上げる「組織的な仕組み」の明確な代案をお示ください。

A. 1. 稼ぐ戦略について

① 安心感とリーチ力（住まい事業について）

住まい事業は「管理・仲介」の拡大を方針として、特に「管理」物件の拡大を中心として進めます。

ご存じの通り、札幌地下鉄沿線上の不動産は高騰しており、10～20年を見据えると学生向け賃貸マンションが減少すると想定します。学生が安心して一人暮らしができるよう、現状北大生が住んでいる区画にとらわれず学生街の変動、具体的には東区、北24条西地区、その他を想定して斡旋物件の確保を進める必要があります。自社開発となると、学生街の変動が想定と異なる形で進行した場合のリスクが極めて高いこと、また現状の北大周辺エリアでは、学生向け賃貸マンション開発において十分な事業性を確保しにくいいため、管理の拡大を進めることで、学生街の変動に合わせ斡旋物件を増やしたいと考えます。今年度、自社開発を予定していないため、投資の想定はしていません。

② 独占的立地（インバウンド戦略）

北大生協としては、まず組合員利用を重視する方針であり、現時点では員外利用拡大を主目的としたインバウンド戦略は想定していません。なお、今年度は北大創基150周年記念、並びにサンリオとのコラボグッズを発売いたしました。ぜひとも組合員の皆様にご利用いただければ幸いです。

③ 強みの掛け合わせ

ご指摘の通り、生協は「立地」「接点」「信頼性」を有しており、それらをどう組合員価値につなげるか重要な経営テーマです。2025年度から特定の企業と年間タイアップを行うことで、100円夕食、コーヒー半額などの組合員向け商品について安価に提供を開始しております。

ただ、生協は営利企業とは異なり、広告事業等についても、組合員利益との整合性、教育研究環境への配慮、過度な商業化の回避が必要になります。その前提で、企業との協働企画による学生支援やキャリア形成支援などを念頭に置き、今後も企業など他組織との協働を進めます。保護者向けについては、インバウンド戦略と同様員外利用の拡大となるため、現在拡大方針はございません。ただし、組合員向け商品だが保護者の興味が高い商品群もあるため、保護者にも並行して訴求を進めます。

2. 大学との交渉について

福利厚生会館整備については、生協単独では解決できず、大学全体の施設戦略・財政状況とも密接に関わっています。現在の協議では、大学全体の施設老朽化対応との優先順位、財源確保、学内意思決定プロセスや関係部局間の調整、将来的なキャンパス構想との整合などが大きな論点になっています。特に、大学は多様な部局・関係者を抱える組織であり、全学的合意形成には一定の時間を要する状況です。生協としては、単に「店舗改修のお願い」を行うのではなく、学生支援機能やコミュニティ形成機能、福利厚生機能、大学運営コストとの関係も含めた形で、大学に必要性を提起しています。既に昨年度から大学執行部と定期的に協議を続けており、生協の学内での多角的な役割については事業活動のみならず、新入生への入学準備支援や、組織委員会を中心とした活動（履修相談会 MANAVI 等）等は一定の評価をいただいていると認識しています。また、北大生協としても大学の課題についてご協力する旨をお伝えしております。引き続き、大学執行部との協議を進めます。

ただし、現時点で具体的なタイムラインや交渉内容の詳細については、協議中の事項も多く、この場で確定的にお示しすることは難しいですが、すでに開始している執行部との協議を継続し、課題の進捗を図ります。

3. 現場主義の仕組み化について

本総代会にご参加いただいてもお分りの通り、大学生協は組合員の参加により運営されている組織です。理事も組合員から選出されており、理事自身も日常的に店舗・サービスを利用する立場として協議を行っており、理事・経営層においても、店舗利用や組合員との対話を通じて、現場課題の把握に努めています。ご提案いただいたストアウォークや覆面調査については、現場理解を深める一つの手法として参考になるものと考えています。一方で、生協では従来から、店舗・現場との定期的な情報共有や、学生委員会を中心とした組合員との対話や定期的なアンケート調査などを通じて、現場課題の把握を行っています。今後も、机上の議論に偏らず、現場起点で改善を進められるよう、組織的な情報収集と改善サイクルの強化に取り組んでいきます。

ご指摘いただいた内容について、一方で、大学という職域の中で長年運営してきた経緯もあり、各種手続きやシステムについては来店型を前提とした運用が多く残っていることも事実です。住居手続きについては既に新入生を中心に非来店型対応を進めており、今後も組合員の利便性向上に向けて順次改善を進めます。

<発言内容> 質問 「クラーク書籍店運用について」 院生総代より

一点目、第二号議案、クラーク書籍店運用についての質問。人文学を専攻する大学院生の立場として昨年のクラーク書籍店のリニューアルと聞いていますけども、実質的な縮小を大変残念に感じました。人文知あるいは総合知というものとしての書籍というものと採算というものと部分のどうしても折り合いをつけるのは難しいところだとは思いますが。

議案書 7 ページには、クラーク書籍については 2026 年度に本格的な運用を開始する予定という風に書いてありますが、第 2 号議案の方をみると具体的な計画について記載が見当たりませんでした。こちらについて現時点で何かしらの計画がありましたらご説明いただきたい。

二点目、第二号議案留学生支援および交流の強化についての賛成意見になります。近年日本における海外支援の進展が著しく留学生の間での不安が広がっていると思われれます。博士学生向けの研究費である大学から寄付される J S T というのが昨年日本政府の方から留学生に対する支給を制限するという提言がありまして、今年の北大だとエグゼクスの参画率が大きく下がっているというような状況で留学生の支援と交流というのは生協として非常に強く力を入れるべき領域だと考えております。

議案書 55 ページおよび 56 ページにかけて留学生委員会の傾向について具体的な記載がありますが、ぜひともこちらにも積極的に取り組んでいただければと思っております。

- A. 1 点目、縮小をしてご迷惑をおかけしているのは認識しています。在庫縮小にあたって一年間にあたって在庫がどれだけ回転するかというところを指標として縮小規模を決定させていただいたところですが、実際に、議案書に記載をした 26 年度から開始するものでいきますと、在庫を縮小し、人員体制も縮小するという計画を中身になっておりますので、ご承知おきいただければと思います。

2 つ目の留学生対応についてです。現在北大生協の留学生委員会ではさまざまなイベント企画で、留学生同士および日本人学生とのつながりを作るところを優先的に進めていくところでした。先日ウェルカムパーティーを行いまして新しく新入留学生に対して支援をしたということもありますし、今後、ピクニックであったり日本ならではの季節イベントに関しても行っていく予定でありますのでその際に大学生同士だけではなく留学生と日本人の大学生との関わりの中で日本生活をスムーズに進められる留学生を増やすことをさらに進めていきたいと思っております。

<発言内容> 質問 「生協運営の考え方について」 学部生総代より

第二号議案について、私全く生協について無知蒙昧ではありますが、僭越ながら伺いたく存じます。当該議案ではその中でつながりの促進だったりサービス対応の促進を活動として進められていると風に解釈しておりますが、一組合員として、そこに何らかの欺瞞があるのではないかと感じている次第です

これはすごいたとえ話になってしまうのですが、道にすごい有名な人が立っていて、ハグを受け入れる体制で待っていたとすると、町行く人がたいていその人を認知していますから、そしてそれを見た瞬間に、有名だという、見た人がその情報についてしっかりと認識してかつ自分が物語においてその価値をいかに与えられるかが様々な形で想起されるわけですから、勝手に人が特に働きかけをしなくても集まる。しかし、同じようなことを私のことを初めて見たという方も多いと思うのですが、そういう中、所謂モブ的な人材だったり、たとえば地位に安寧した人物だときっとそうはいかないと思います。なぜかといったら、相手からしたら想像的なイメージしかない。自分においてどういう価値を与えられるかというのをしっかりと自立した、そうしたときに我々の、私みたいな人間がどうすべきかといったら相手に対してこう困っているから助けてほしいという意思を問う以上に私が相手に対してどのような価値を与えられるか伝える営みを謙虚かつ内省的に行わなければならないのかなと思います。

生協は自律的な相互扶助を前提にした組織であるとされている。現状では、みんなが入っているからといった結果によっていわば権威的な側面が否定できないのではないかなと思案しております

その点を踏まえて 3 点伺いたいと思っております

- 1、生協がもちうる権威性に関してどのような認識でいらっしゃいますか
- 2、議案における繋がりについて、改めてどのような認識でいらっしゃるでしょうか
- 3、今後の指針は学生の自立と相互扶助を尊重する精神との親和性があるとお考えでしょうか

- A. 生協が持つ権威性に関しては、権威を謳っているわけではない認識をしております。新入生が加入をするにあたっての中身として多くは生協の新入生に対する提案の商品を利用したいという意見を多くいただいているというところです。新入生がパソコンを買うために組合員になりたい、共済に入りたいと思っているので組合員になりたい、ということも多くいただいているということでもありますので、みんなが入っているから入っているだけというわけではないと認識しております

議案における繋がりについてのどのような認識をしているかについて、先ほどの議案ですけれども新入生の対応に関して、北大生へのサービスが充実しているのは、現役北大生の先輩アドバイザーから提案をする商品であったり、部屋紹介ということですすすめています。

これらは組合員である先輩学生が組合員になる後輩学生に対して自分の自らの経験を踏まえてそれを商品等々に活かしていく、商品や事業を人と人との繋がりによって広げていきたいと考えています。

今後の指針は学生の自立と相互扶助を尊重する親和性があるかについて。生活協同組合は、まずは人と人とのつながり、一人はみんなのために、みんなは一人のためにという相互扶助を基本としているところです。それらの相互扶助の前提となるのは一人ひとりがどのような大学生活を送りたいのかどのようなことを学んでいきたいのかという一人一人の想いが非常に重要となっています。相互扶助のつながりがあるから自立がなくなるだとかそういうことはないかと認識しております。非常に親和性、逆に、それぞれ頑張ってる北大生、先輩方がいるからこそ自分たちもそれをみて頑張るという繋がりをもっています。一人一人の組合員が自立し、主体的に活動している。そのようなことを繋げていくことこそが、自立と相互扶助の親和性を高めていくという認識です。

<発言内容> 質問 「無人営業実施店舗の生協マネーチャージ機について」 学部生総代より
現在保健学科では、有人営業2時間 無人営業22時間で行われていますが、生協マネーのチャージが有人営業の2時間の中でしかできないために無人営業時間に購買が利用できず、近くのコンビニを利用するしかないという問題が発生しております。24時間生協マネーをチャージできるチャージ機の設置の検討予定などはございますでしょうか。

- A. 以下の二点の関係で設置をしていません。一つ目がセキュリティの問題、二つ目が設置コスト、運用コストの問題です。まずセキュリティの関係で言いますと北大生協が持っているチャージ機は現金を入れられるようになっているので、無人の状況で24時間放置できる状況じゃないとご理解いただきたいと思います。

二つ目の設置・運用コストがかかる点ですが、現状小規模な学部店舗の客数の利用を考えると現金チャージ機を設置・運用するだけで赤字になってしまうということもあって設置していないということになっております。

銀行口座のオンラインチャージ等々でレジがなくてもチャージができるようになるので、そちらを是非ご利用いただきたいと考えております。

<発言内容> 質問 「赤字解消の見直しについて」 院生総代より

第一号第二号議案に関してご質問いたします。北大生協が非常に厳しい経営を、改善することが求められる。昨年度までの再生3か年計画のご報告をいただいたところです。その結果、昨年度一年間の企画が議案書にありますように、昨年度は1841万円の剰余金が発生しているため繰り越し剰余金がマイナス1億5808万円になったところでした仮にこのペースで経営改善が続いたとしても、繰越剰余金がプラスに転じるのは、単純に計算しても少なくとも6年を要しますつまり、現在在籍する学生及び院生組合員がほぼ全員が脱退するまでその影響を受けるといことです。昨年度までの再生三か年計画終了後も改善していくという議案書や総代会などでご報告を拝読する限り、3年という期間で経営状態が改善することではない。3点お伺いします

1、累積赤字の早期解消を増やすという非常に抽象的な目標を定めた再生三か年計画にはたして実効性があったか

2、非常に長期にわたり、経営改善という名目で不採算事業の見直しとし、結果として利便性の低下を招くということに少なくとも在学中に繰越剰余金のマイナス解消の見通しが立たない現行の組合員の利用者から具体的にどのような利益が得られるのかお答えください

3、繰り越し剰余金のマイナス値が解消する見直しはあるでしょうか。もしある場合は具体的な時期を無い場合は、具体的に答えられない、若しくは非常に長期にわたる場合は、不採算事業の見直しという名目で利便性の低下を阻止するということに少なくとも在学中に卒業までに繰越剰余金のマイナス解消に見通しがたたない現行の組合員の利用者から具体的にどのような理解が得られるのか

A. まず利便性が低下しているということに関して、様々なサービスがあるところでやめるサービスに関してはもちろん赤字構造を脱却するためという効果もありますが、いずれかのタイミングでやめるべきサービスだったという認識しています。

剰余金を早期にプラスに転じるためにどのようにし、転じるまでの間のサービスにどのような認識をしているかということですが、まず早期にということではまずと大学生協としては一年で何とかまずは返すぞ、ということではなくて現状のサービスを何とかきちんと担保しながら、繰越金、欠損金を減少させていきたいと考えているところです。様々なものをもっと一気にやめていくとか最大の効率化を図るということで、一、二年をかけて、赤字額の縮小を検討できると思いますけれど、このようなことこそが、在学中の学生に対しての必要以上のサービス低下を招かないよう、長期に渡って欠損金を少しずつ減らすという中身になっていると思います。現状の在学生に対しても最低限、もしくはサービスを向上させるべきところを向上させつつ欠損金を減らすという風になっていきますので、在学中に赤字だったからサービスが悪いということはないように進めていきたいと認識しています。

最初の田所委員長からの話でもあったように還元企画自体も継続的に行っています。これらは赤字だから全てをやめていくということではなくて、必要な還元については継続的に行いますし現状やめていったものを例えば黒字になったから復活させるということではないという認識なので北大生協の経営状態がどのような状態になったから、サービスを受けられなかったようなことはないように進めていきたいと考えています。

討論まとめ（理事長 坂爪浩史）

北大生協はいろんなところで意見を言える場面があります。意見を言っても全然変わっていないじゃないか、と私も組合員の時に思いましたが、いろんな形で意見表明していただけたらと思います。

協同組合の難しいところは、不採算事業をやめればいいわけではないところです。農学部の食堂も黒字ではない。じゃあやめますかと言われたら組合員のメリットが無くなってしまいます。組合員のところが生協から離れていってしまいます。

我々としては極力、店舗も含めて事業は縮小させない方針で組合員サービス低下させない、ぎりぎりのところで今までもやってきたし、これからもやっていくことは変わりません。

赤字ということは利用状況に問題あるということです。皆さんの利用を高めていきながら、なんとかトントンで、若干の赤字であれば収益事業で、トータルとして黒字になるように努力して行きたいです。今後とも活発な意見表明というのを色々なところでしてもらえたら嬉しいです。以上で回答に代えさせていただきます。

総代会当日、時間の関係でお答えできなかったご意見とその回答

質問 「累積赤字解消に向けた事業ポートフォリオの明確化、大学との交渉戦略、および経営陣の現場主義の具体的な実行計画について（再質問）」 院生総代より

1. 「稼ぐ戦略」と生協の強みのマネタイズについて

ご回答ありがとうございます。方針は理解しました。しかし甘いと感じます。

- ① 管理・仲介に特化するなら、木村工務店等の強力な競合からどうシェアを奪うのかという「戦略」が必要です。単なる「人件費の増額（気合と根性）」や注力するという方針だけで勝てるのでしょうか？例えば、先ほど申し上げた「オンライン手続きの遅れ」を解消するためのシステム投資額など、具体的なDX投資の計画は含まれていますか。
- ② インバウンドについて「検討中」とのことですが、「学内構成員を安く支えるために、外部から高く稼ぐ」という交差補填のロジックであれば、観光客向けビジネスは福利厚生と対立するものではなく、むしろ福利厚生を守る必須要件のはずです。「検討」はいつまでに終え、いつからどのように実行に移すのか、期限をお答えください。

2. 大学の縦割りを突破する「交渉のカード」について

生々しい実態を共有いただきありがとうございます。しかし、「大学も財政難だから難しい」というのは、現場の担当者レベルの理屈です。

大学のコスト削減を担う執行部（総長レベル）に対し、「生協が撤退して大学で業務を丸抱えするコスト」と「生協の家賃を減免して任せるコスト」を天秤にかけさせるような、経営トップ同士のシビアな交渉は行われているのでしょうか？「副学長との共通認識」で止まるのではなく、トップダウンで施設部に指示を下させるためのアクションを今年度どう起こすのか、もう一步踏み込んだ決意をお聞かせください。

3. 経営トップによる「現場主義」の仕組み化について

まさにその「総代に学生が居るから」という慢心こそが、クラーク会館まで足を運ばせるような「オンライン化の遅れ」といったリアルな不便さを長年放置してきた原因ではないでしょうか。

「レジの混雑」といった目に見える問題は、現場の店長でも気づけます。経営陣に求めているのは、事業構造全体に関わるようなユーザー体験の悪さに気づくことです。

制度化しないのであれば、例えば外部の調査会社を入れた客観的な顧客満足度（NPS）調査を定点観測するなど、経営陣が「痛い事実」から目を背けられないようにする組織的な仕組みをどう担保するのか、具体的な代案を再度強く求めます。

A.

1. 住まい事業について、木村工務店様は現時点では重要な斡旋パートナーであり、単純な競合関係と捉えているわけではありません。また、管理物件を拡大していくためには、関係事業者と協調しながら組合員に最適な選択肢を提供することにあります。仲介手数料ゼロ・敷金返還トラブルへの対応・組合員情報の適正管理という信頼の蓄積のために費用を割くことが重要と考えています。

オンライン手続きについては、既存の契約書様式とオンラインシステムの適合という実務的制約があり、オーナー側も含めた調整が必要な状況です。引き続き段階的な対応を進めてまいります。

また、気合と根性だけでは何も為すことはできないことは同意いたしますし、最後は気合と根性だということについて、共感いただけることと思います。

インバウンドについては、組合員以外の利用制限という制度的前提がある以上、観光客向けビジネスを本格的に展開する考えは現時点ではありません。

2. 大学との交渉については、トップダウンで解決できるという見方は現実的ではなく、生協としても過去にそのような進め方によって組織的なダメージを受けた経験があります。そのようなこともあり現在は、大学と歩幅を合わせながら協力と協調を基軸に合意形成を進める方針をとっています。

これを「現場担当者レベルの理屈」とご批判いただきましたが、協同組合は対立ではなく協同によって成果をつくる組織です。

施設問題に関しては総長をはじめ大学執行部とは幾度も意見交換を重ねてきております。今年度もその機会を設ける予定ですし、引き続き対話を進めてまいります。

3. 「総代に学生がいるから現場は見えている」という認識に安住し、問題から目を背けてきたというご指摘については、実態として申し上げますと、理事会内外でいわゆる「痛い事実」は継続的に共有されてきています。

レジの混雑については、長年ご不便をおかけしていることを率直にお詫び申し上げます。現場・経営双方で課題として認識していますが、その背景には人員不足や採用難といった構造的な制約があり、意思決定のみで即時に解消できない側面があることも事実です。

本質的な論点である「経営として構造的なユーザー体験の問題をどう把握し続けるか」については、現状、学生委員会やアンケート、店舗からの報告といった仕組みで課題の把握はできているものの、それを経営の優先課題として十分に昇格させきれていない点には課題があると認識しています。外部調査やNPSといった手法も有効な選択肢として検討対象としつつ、まずは既存の情報を確実に経営判断につなげる仕組み、すなわち理事会での定期的な課題レビューや改善が進まない事項の可視化といった内部プロセスの強化を優先してまいります。

「問題は認識しているが構造的に解決できていない」という状態を放置するつもりはありません。現場の不便さを経営の最優先課題として扱う仕組みの制度化に取り組み、現実の制約の中ではありますが、一つ一つ着実に改善を進めてまいります。

事前にいただいたご意見に答えて

Q1.

北部旅行店の人件費がかなり大きいように見えるが、どうしてか。
また、常駐という立場から開催日を決めるようにしたほうが人件費が浮くのではないか。
(学部生総代より)

A1.

北部旅行店の人件費についてご指摘をいただきましたが、以下の理由により一定の人件費が発生しております。

1. 旅行業務取扱管理者の配置義務 旅行業法により、店舗には旅行業務取扱管理者の配置が義務付けられており、当店でも同業他社と同様に資格手当を支給しています。このため、一定の人件費が必要となります。

2. 平日の常時相談対応 平日は基本的に営業しており、組合員の方が都合の良い日に自由に来店できる体制を維持しています。相談内容によっては1件あたり1時間以上かかることもあり、予約申込期限もあるため、柔軟な対応が求められます。

3. 開催日の固定が難しい理由 「常駐ではなく開催日を決めて対応する」というご提案については、相談内容の幅広さや緊急性、申込期限の制約などから、現時点では開催日を限定する運用は難しい状況です。

以上の理由により、現在の体制が必要であり、人件費も一定程度発生している状況です。

Q2.

- ・工学部の食堂の列の進みが遅い。2レーンしかない上に各レーンで食事を盛り付ける人が一人ずつしかいない。そのため時間の関係上食堂を利用できず、栄養バランスが偏ることが多い。
- ・ホットスナックのお弁当のリサイクル回収所の場所を増やしてほしい。工学部の北側、中央南側など。

(学部生総代より)

A2.

・パート職員の人数が不足しており、ぎりぎりの人員配置で運営している次第です。そのため麺コーナーも閉鎖するなど、組合員の方々にご迷惑をかけている現状となっております。募集をかけても応募がなかったり、採用してもすぐ辞めてしまうなど苦慮しているところです。最近、応募も来るようになってきていますので順次採用し、混雑解消に努めていきます。

・リサイクル回収場所についてですがフィルムを剥がす容器とはいえ、臭いが発生することもあるので食堂ホール内の場所は現在の下膳ローカ所とさせていただきます。なお、弁当を販売している購買店にも回収場所を用意していますのでご利用いただけます。

Q3.

議案〈p4、1-4〉

「学生委員会が中心となり、…共済活動を行いました。…共済認知度の向上と給付申請漏れ防止に貢献しています。」とありますが、体験型の共済活動に参加したのは何人ですか？また、「10月には共済強化月間を全店舗で実施し、…126件の給付申請がありました。」とありますが、「共済強化週間」では、誰が、どのような活動/取り組みを行ったのですか？

(学部生総代より)

A3.

体験型の共済活動につきましては各回の参加人数は以下の通りです。

- ・2025/1/14 ベジチェック 110名
- ・2025/4/30 ベジチェック 66名
- ・2025/6/16-17 自転車点検会 501名
- ・2025/10/21-22 健康博 488名

「共済強化月間」では生協全体で取り組むという目標のもと、事前に全店舗で共済給付事例交流会を行い、北大生にはどのような給付事例があるのか、そのことで大学生活にどのような影響があったのかなどを学びあいました。強化月間中は各店にポスター掲示を行い、特定の日にレジでもチラシを配布し声掛けを行いました。特に「強化週間」中は生協全店舗にポスターの大量掲示を行い視覚的にも共済金申請へのはたらきかけを行いました。保護者様には「共済金の申請忘れはありませんか？」とメールにてご連絡し、メールを見た保護者様からのアクションもありました。共済強化月間中は共済カウンターには、チラシを手に「共済金の申請に来ました」という学生さんも複数見られ、共済金申請忘れに対して一定の効果はあったと感じています。

Q4.

議案〈p16、【食堂分類】〉

「新入生、在校生ともにミールプランの申込数が減少した」とあるが、具体的に何人から何人に減少したのか。また、それぞれ、申込者の割合はどのくらいか。

(学部生総代より)

A4.

ミールプランの申し込みは、新入生が851名(24年)→831名(25年)、在学生在が762名(24年)→636名(25年)と減少しました。入学者比の申込割合は32.7%(24年)→32.0%(25年)となります。

Q5.

ミールプランを紹介された時、「入るとお得」と説明を受けた覚えがあるのですが、具体的に、ミールプランは週何回食べれば元が取れる(入らない場合よりお得)でしょうか？

(学部生総代より)

A 5.

4月開始のベストコースが申込金額 183,400 円に対し最大利用額が 225,400 円なので、対象期間 161 日全日利用することで 42,000 円お得になります。日数に換算すると 30 日分なので、おおよそ週 4 日以上利用すれば元が取れる計算になります。スタンダードコースですと申込金額 98,700 円に対し最大利用金額が 112,700 円、対象期間 161 日全日利用で最大 14,000 円お得になります。日数に換算すると 20 日分なので、週 5 回の利用を基本として、月に 2~3 回は週 4 回の週があっても元が取れる計算になります。

ですが、ミールプランは「規則正しい食習慣を身につけること」を第一の目的として提案している商品であり、損得を第一のメリットとしているものではありません。説明時に誤解を招く表現がございましたら申し訳ございません。

Q6.

「食」に関して、昼時間帯を中心とした利用拡大を目指した種々の改善、取組みは前向きに進めていただきたい。特に出食スピードが遅いことは利用者である学生・職員にとって改善いただきたい課題だが、これに追われる食堂スタッフの方々にとっても気持ちよく働いていただける環境でなくしているようにも思う。人員不足も原因として考えられるので、引き続き対策を検討いただきたい。

(教職員総代より)

A 6.

提供スピードについてご不便をおかけしているとともに、食堂スタッフについてもご配慮いただきありがとうございます。おっしゃる通り食堂全店で人員不足が深刻化しており、店舗によっては提供窓口の縮小や麺コーナーの閉鎖など、十全の体制でない中での営業となっているのが現状です。食堂スタッフの高齢化による退職や、負担の大きい体制であることから新規採用が定着せず研修の人件費だけが増える→人員が補充されず現場の負担がさらに増えるという悪循環が発生しており、改善が急務であると認識しています。新規採用は引き続き強化しつつ、食堂スタッフが働きやすいよう厨房環境や運営体制を正規職員が主体となって改善に努めます。提供スピードについては今年度から全国統一でメニューを刷新した関係で新規メニュー、盛り付け工程の多いメニューなどが増えたため、昨年度よりも全体的に提供に時間がかかっている状況です。スタッフが慣れるまでスピードアップには少しお時間をいただきますが、商品のクオリティは高く提供していきたいと思しますのでお気づきの点があれば組合員の声などでお知らせいただけますと幸いです。

Q 7.

招請状の用紙をもう少し質の悪いものにしたリモノクロ印刷して経費を削減したほうがよいと考えます。

(学部生総代より)

A 7.

ご意見ありがとうございます。次年度は紙の厚さを落として作成したいと思います。

Q 8.

① 〈p0、設立趣意書、18〉

「大きな役割を”はしてきた”」→「大きな役割を”果たしてきた”」の間違い？説明 or 訂正をお願いします。

② 〈p0、設立趣意書、113〉

「否定しきろう」→「否定し去ろう」にした方が読みやすい。説明 or 訂正をお願いします。

『第1号議案』

③ 〈p2、北大生協3ヶ年計角2023～2025程度〉

「●組織課題の4つの再生ポイント」の「4、全ての生協職員に…」のところ、「課題執行に関しよしてもらい、」→「課題執行に関与してもらい」では？説明 or 訂正をお願いします。

④ 〈p11、3) 教職員組織委員会〉

1. 教職員会議」、3. フォトコンテスト2025」のように、鉤括弧」が不自然についている。これは、何か意味があるのですか？

(学部生総代より)

A 8.

この度は資料の不備があり申し訳ございません。いずれも訂正すべきものです。誤字が発生しないように複数名での点検を励行します。

Q 9.

第二号議案の意見というより総代、生協全体に対する意見です。活動内容の説明をもっと詳しくした方がいいと思います。特に予算案は活動のほぼ全てに影響があると思いますが、その賛否を決める一票を投じるほどの権利があるとは思いませんでした。仕方なく総代になった人もいると思うので、仕組みを見直した方がいいのではないかと思います。

(学部生総代より)

A 9.

ご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

総代会でご審議いただく内容は、生協の活動や予算、事業運営に大きく関わるものであり、その役割の重さについて改めて認識しております。一方で、活動内容や予算案について十分にわかりやすくお伝えできていなかった点につきましては、課題として受け止めます。

また、「仕方なく総代になった方もいるのではないか」というご指摘につきましても、総代の皆さまに納得感を持って参加いただける運営や、役割・意義を理解しやすい説明の工夫が必要であると考えております。

今後は、活動内容や議案説明の充実、情報提供のわかりやすさ向上に努めるとともに、総代制度のあり方や参加しやすい仕組みについても、いただいたご意見を参考に検討してまいります。

Q 10.

生協の活動全体についてもご意見申し上げたいことがあります。「非営利組織であること」「大幅な赤字であること」を強調するのなら活動内容を見直すべきだと思います。とりわけ気になった点として、ミールプランと学修スタイル講座があります。私はミールプランは利用していませんが、利用可能金額をもちこせないのに、得をする金額が低すぎると思います。目標利用率を下回っているようですが、当然ではと思ってしまいます。そして学修スタイル講座についてです。3万円と高額ですが、パンフレット(北大入学準備ガイド)などの説明は値段がわかりづらく、はっきり言って金額を隠しているとした

思えません。私は学修スタイル講座を利用しましたが三万円はいくらなんでも高すぎると思います。その他にも大変申し訳ないですが利用していて気分があまりよくないことが多々あるので、赤字などで運営が厳しいのは分かりますが運営方針を考え直していただきたいです。

(学部生総代より)

A10.

生協の運営や各事業について率直なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

日頃のご利用の中でご不快な思いをされたとのこと、お詫びいたします。いただいたご意見は真摯に受け止めます。

北大生協は学生・院生・教職員の組合員によって支えられる非営利組織として、北大生活を支えるための事業・活動を行っておりますが、その中で「内容や価格に納得感が持てない」「説明がわかりづらい」と感じられる点があったことについては、改善すべき課題であると認識しております。

ミールプランにつきましては、健康的な食生活を後押しすることを目的としておりますが、利用条件や還元内容について、組合員の皆さまから様々なご意見をいただいております。いただいたご指摘も、今後の制度検討の参考とさせていただきます。

また、学修スタイル講座につきましても、価格設定や内容説明の分かりやすさについてご意見をいただきありがとうございます。特に、パンフレット等で価格が分かりづらかったとのことご指摘は重く受け止めております。講座は大学での学びへの適応や ICT 活用支援を目的として実施しておりますが、価格に見合う価値として十分に伝わっているか、納得感を持って選択いただけているかという点は、今後も検討・改善していく必要があると考えております。

赤字運営へのご指摘も含め、生協の事業や活動が組合員の皆さまにとって本当に必要とされ、安心して利用いただけるよう、今後の運営改善に活かしてまいります。

Q11.

今、札幌キャンパスでは、植生を管理する必要がでてきており「中庭プロジェクト」や「エンレイソウ園芸部」など活動が色々なところで行われています。この活動を環境委員会と共に行うことができれば互いに活動の幅が広がるのではないのでしょうか。

(学部生総代より)

A11.

札幌キャンパス内で進められている「中庭プロジェクト」や「エンレイソウ園芸部」など、植生管理や環境整備に関わる活動についてご紹介いただきありがとうございます。中庭プロジェクトは昨年教職員委員会で発行した『きぼうの虹』で寄稿をいただいた取り組みです。学生・教職員が主体となってキャンパス環境をより良くしようとする取り組みは、大変意義のあるものと考えております。

ご提案いただいたように、これらの活動と環境委員会が連携することで、活動の幅や参加の広がり、新たな交流の機会につながる可能性があると感じています。今後、関係する委員会・団体とも情報共有を行いながら、連携のあり方について検討してまいります。

Q 1 2.

議案 〈p61〉

「議案の本旨に反しない範囲の字句の修正を理事会に一任します。」とあるが、字句の修正を行った場合、どこを修正したのかについては、いつ、どのように組合員に知らされるの？

(学部生総代より)

A 1 2.

「議案の本旨に反しない範囲の字句の修正を理事会に一任します」という表現は、総代会で議決いただいた内容について、法令・定款との整合や誤字脱字、表現上の整理など、議案の趣旨を変えない範囲で必要な修正を行う場合を想定したものです。

直近では修正を行ったケースはありませんが、実際に発生した場合には理事会での協議後にホームページ等で組合員の皆さまにお知らせすることで想定しております。

Q 1 3.

総代会について

何時ごろ、終了予定？どのタイミングで「ご意見用紙」を使うの？それぞれ、何分かかかる予定なの？初めて参加する人たちは、全く分からないから、総代会の流れについて、事前に詳しい説明が欲しかった。

総代会 招請状について

「封筒は郵送または最寄りの生協購買店舗カウンターに提出願います。」とありますが、「生協購買店舗カウンター」がどこか分かりませんでした。学生委員さんに聞いて解決しましたが、具体的にカウンターがどこにあるのか、や、マップなどをつけてくれると良かったなと思いました。

(学部生総代より)

A 1 3.

ご意見ありがとうございます。初めてご参加される総代方向けの案内が不足していたことをお詫びします。次年度は『総代会議案ダイジェスト』や事前の総代学習会でお伝えできるように改善したいと思います。

Q 1 4.

累積赤字について

「1億5048万円の赤字」ってあるけど、赤字ってことは、借金してるの？どこから借金してるの？銀行？

(学部生総代より)

A 1 4.

現在北大生協は1億5048万円の累積赤字を抱えています。これは「これまでの事業活動の結果として、利益の積み上げよりも損失の積み上げが大きい状態」を表しています。そのため、「累積赤字＝すぐに銀行から多額の借金をしている」という意味ではありません。

生協の運営では、出資金や日々の売上による資金などを使いながら事業を継続しています。一方

で、設備投資や運転資金のために金融機関から借入を行う場合もありますが、借入金の有無や金額は、累積赤字とは別に管理されています。今回の「累積赤字」は、「これまでの経営結果として損失が積み上がっているため、今後の経営改善が必要な状態である」ということをお伝えするものです。

組合員のみなさまに不安を与えないよう、経営状況については今後もできるだけわかりやすくお伝えしてまいります。

Q 1 5.

員外利用について

「議案書なんでも用語集」にて、「生協法では原則的に禁止されているが、監督官庁に申請して許可を得ている範囲で利用が可能になる。」とありますが、員外の方は、何がOKで何がNGなの？具体的に教えてほしい。

(学部生総代より)

A 1 5.

組合員外利用は、次のような場合で北大生協の物品提供が利用可能となっています。

- ・北大を受験する受験生・保護者の方
- ・学会・研究会・公開講座などで来学した方
- ・教職員・学生の家族や同行者
- ・一時的に来訪した研究者・関係業者の方
- ・大学見学・オープンキャンパス参加者

一方で、北大生協は組合員のための組織ですので「誰でも自由に日常利用できる」というものではありません。「学外の方が継続的・日常的に利用すること」「組合員利用を圧迫するような利用」にならないよう、年間の利用総額の2割を超えない範囲との制限があります。

Q 1 6.

総代会報告集について

「ご意見用紙」に「届いた意見に対して総代会報告集にて理事会の見解を表明いたします」とありますが、「総代会報告集」はどこで見れるのですか？

(学部生総代より)

A 1 6.

北大生協ホームページにて公開いたします。過去の報告集は下記 URL から確認いただけます。

<https://www.hokkaido-univcoop.jp/hokudai/univcoop/board/soudaikai.html>

Q17. 生協の事業活動（紙カタログ、ECへの競争力）への意見

1. 紙カタログの見直しについて

毎月配布される販売品一覧のカタログについて、量が多く、十分に活用されていないまま廃棄されている

可能性が高いと感じています。資料でも広報物の見直しやデジタル化の進展が示されており、紙媒体の必要性は低下していると考えられます。そのため、

紙カタログの原則廃止（希望者のみ配布）

Web・アプリ・メール等への一本化

など、デジタル化への転換をより積極的に進めるべきと考えます。

2. 生協利用の低下について

現在、生協の利用機会が全体的に低下している点が課題と感じます。

実際に、利用者数の減少 書籍・食堂・購買各部門での利用低下 が報告されており、組合員数は維持されている一方で、利用率が下がっている状況にあります。

個人的にも教職員にとって、研究関連の日常の購買はAmazon等のECサービスを利用することが多く、生協は必須の選択肢となっていないと感じています。

3. ECとの競争への対応について

現在の購買は、価格・利便性・検索性の点でECに大きくシフトしており、生協もこの影響を受けている

ことが資料でも示されています。

今後は、単なる店舗運営の効率化に加え、

「なぜ生協を利用するのか」という価値の再定義が必要であると考えます。

4. 今後の改善提案

以上を踏まえ、以下を提案します。

紙媒体からデジタルへの本格移行

アプリ・Webを中心とした利用導線の整備

学内での受取など、生協ならではの利便性の強化

学部・授業に密着した商品・サービスの充実

5. まとめ

現在の北大生協は再生に向けた取り組みを進めているものの、利用実態とのギャップが依然として存在していると感じます。

特に、紙中心の情報提供 ECに対する競争力については見直しが必要です。

今後は、デジタル化と利用価値の向上の両面から、組合員にとってより利用される生協となることを期待します。

(教職員総代より)

A17.

生協事業活動に関する丁寧なご意見と具体的なお提案をありがとうございます。

ご指摘いただいた通り、組合員の購買行動は大きく変化しており、EC 利用の拡大やデジタル化の進展により、生協を取り巻く環境も大きく変わっています。現在の利用低下やシェア率の課題については、危機感を持って受け止めています。

まず、紙カタログにつきましては、組合員への情報提供手段として長年活用してきましたが、一方で「十分に見られないまま廃棄されているのではないか」というご指摘や、環境負荷・印刷配送コストの観点は重要な課題であると認識しています。現在も配布希望数の修正を組合員の皆さまから要望いただいたものについて都度対応させていただいておりますので、不要と思われる場合はお知らせください。

また、生協利用の低下についても、ご指摘の通り、組合員数が維持されていても利用率の低下が課題となっています。特に研究・日常購買分野では、価格・検索性・配送スピードなどの面で EC サービスとの競争が厳しくなっていると認識しています。

その中で、生協としては単に「安さ」で競争するだけではなく、

- ・学内で受け取れる利便性
- ・研究・授業に必要な商品を相談しながら手配できること
- ・大学内で安心して利用できるサービスであること

など、生協ならではの価値を改めて強化していく必要があると考えています。

ご提案いただいた、

- ・紙媒体からデジタルへの移行
- ・Web・アプリを活用した利用導線整備
- ・学内受取機能の強化
- ・学部や授業に密着した提案強化

につきましては、今後の事業改善を検討するうえで重要な視点として受け止めさせていただきま
す。厳しい事業環境の中ではありますが、「組合員に利用され、必要とされる生協」であり続けるた
め、デジタル化と生協ならではの価値向上の両面から改善を進めていきます。

貴重なご意見をありがとうございました。

Q18.

通常総代会の議案書の公開が（メール通知が）5月8日で、当該議案書の可否を総代が決する必要があるのは、本状を含む議決書の提出期限日たる同月18日迄である（郵便物が届いたのは11日）。2週間足らずの間で100頁超の議案書を読み、生協の状況を把握したうえでの判断をするには難がある。議案書ダイジェストは生協側による編纂であり、総代自身が情報収集を行うに足る時間をもっと確保するべきと考えるが、いかがか。

（院生総代より）

A18.

総代の皆さまに議案内容をご理解いただき、納得して議決いただくことは大変重要であると考えます。一方で、決算確定や監査、理事会議決、印刷・発送など、総代会開催までに必要な手続きや日程上の制約もあり、現在のスケジュールで運営しております。

その中で、議案書ダイジェストや総代学習会、質問受付などを通じて、できるだけ内容を把握いただきやすいよう努めておりますが、ご指摘の通り、総代ご自身が十分に検討・情報収集を行うための時間確保は課題であると認識しております。議案書公開時期の工夫が可能か、事前説明資料の提供方法、要点整理や情報提供のあり方などについて、より分かりやすく、検討しやすい運営となるよう改善を検討してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。

Q19.

25年度は黒字決算となったこと率直に評価したい。昨年度の総代会での白熱した議論もあり、役員の皆様は本当にご尽力いただいたことと存ずる。

一方、利用動向をみると、前年比大幅減が目立つ。また改善されたとはいえ、引き続きマイナスである。シェア率目標も未達成だ。国際情勢の悪化もあり、厳しい情勢が続くと予想される。目標未達や利用動向の悪化に関し、どのように責任を取るのか。また、新たな再生計画がうまく実施できなかった時、どのように責任をとるのか坂爪理事長を始めとする役員の皆様の反省と今年度の覚悟を問いたい。

(院生総代より)

A19.

25年度決算につきまして、黒字化を率直に評価いただいたことを感謝いたします。

一方でご指摘の通り、利用高については前年比で減少している事業分野もあり、依然として厳しい経営環境が続いています。シェア率目標についても未達項目があり、重く受け止めています。

現在の黒字決算は、一時的な改善ではなく、組合員の皆さまに必要とされる生協として持続可能な経営を実現できるかどうかの通過点であると認識しております。そのため、役員一同、今回の結果に安堵するのではなく、「なぜ利用が伸び悩んでいるのか」「組合員の期待に十分応えられているか」を引き続き真摯に検証し、改善を進めていきます。

再生計画についても、「計画を立てること」ではなく「実行し成果につなげること」に責任があると考えています。計画が十分な成果につながらなかった場合には、その要因分析と改善を行い、必要に応じて事業・運営体制の見直しを含め、役員としての責任を果たしていきます。

以上

2026年度 役員一覧

2026年度の理事・監事は通常総代会において決定就任し、その後の第一回理事会及び第一回監事会において、役職が互選され決定しました。

理事会			
	役職	氏名	所属
代表理事	理事長	坂爪 浩史	農学研究院 教員
代表理事	専務理事	齋藤 真廣	生協職員
	常務理事	金川 眞行	総務企画部総務課 職員
	常務理事	小川 美香子	薬学研究院 教員
	理事	林 忠一	北方生物圏フィールド科学センター 職員
	理事	今村 央	水産科学研究院 教員
	理事	渡部 典大	工学研究院 教員
	理事	川上 あき	高等教育推進機構 教員
	理事	佐藤 哲生	工学系事務部 職員
	理事	里 眞理子	北キャンパス合同事務部 職員
	常務理事	田代 直也	工学院 修士2年
	理事	中野 翔太郎	法科大学院 修士2年
	常務理事	渡邊 稀羅	農学院 修士1年
	常務理事	楠井 太智	法学部 学生4年
	理事	松田 和歩	農学部 学生4年
	理事	山下 匡隆	法学部 学生4年
	常務理事	田所 和廉	理学部 学生3年
	理事	岡田 唯花	医学部保健学科 学生3年
	理事	福嶋 柳之丞	教育学部 学生3年
	理事	福田 梨瑛	教育学部 学生3年
新任	理事	坪内 將恭	工学院 修士2年
新任	理事	梅本 樹弥	理学部 学生3年
新任	常務理事	神蔵 和奏	法学部 学生2年
新任	理事	高岸 大知	法学部 学生2年
新任	理事	齋藤 愛斗	法学部 学生2年
監事会			
	役職	氏名	所属
大学推薦	監事	芳賀 永	先端生命科学研究院 教授
	監事	岡野 泰樹	経済学研究院 准教授
	監事	山崎 瞳子	生命科学院 博士1年
	監事	戸松 陸	文学院 修士1年
新任	監事	渡辺 爽人	経済学院 修士2年

順不同

